

令和3年度 第1回 成田市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 開催日時

令和3年5月20日（木）午後1時30分から午後2時30分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 行政棟6階 大会議室

3 出席者

（委員）

河合委員、山田（考）委員、藤田様（成田市タクシー協議会代理）、
篠巻様（深井委員代理）、大川委員、青木委員、板橋委員、中田委員、宮崎委員、
時田様（山田（孝）委員代理）、伊東委員、中村委員、寺田様（若林委員代理）、
吉岡様（関口委員代理）、小泉委員、小川委員、関根委員、小幡委員、木下委員、
谷平委員、米本委員、川崎委員、岡田委員

（合計23名 順不同）

※欠席された委員

今井委員、山本委員、轟委員、渡邊委員、石橋委員、伊藤委員

（事務局）

都市計画課 芹澤課長、塚本課長補佐、細田係長、仲嶋主査、川島主任主事

交通防犯課 鈴木課長、佐藤係長

高齢者福祉課 佐藤係長、中川主査、横塚主任主事

4 議題

成田市地域公共交通計画（素案）について

5 議事(要旨)

事務局より計画素案の説明を行い、その後、伊東分科会会長より、交通事業分科会での協議内容について報告を行った。

議題「成田市地域公共交通計画（素案）について」は、挙手全員にて案のとおり決した。

質疑応答は次のとおり。

(質疑応答)

議題 地域公共交通計画(素案)について

意見(青木委員)

今後高齢者の増加が想定されているが、公津の杜駅からイオンモール成田まで路線バスで直接行けるようになったことは、ニュータウンの人々からご好評をいただいている。今後高齢者の免許返納も増えていくため、高齢者の外出を支えるための検討をしていただければと思う。

意見(小幡委員)

論点は多々あり、一気呵成にということは難しいが、利用者、交通事業者、行政で同じ土俵に立ち、共有できたことは前進につながる。

P91の評価指標6「利用促進に係る事業・イベントの数」について、学校教育において食育や地産地消、公共的なSDGsなどを学ぶ場面もあるかと思うので、適切なタイミングで、公共交通の重要性を伝えることができるとう望ましい。そのための説明キット作成などで先生方から伝えていただくなども重要ではないか。自家用車については、テレビCMで販促やイメージアップがされているが、公共交通やバスを利用するというテレビCMがあっても良いのではないか。ハードルは高いができなくはないと思われる。また、企業においても、CO2削減目標があり、公共交通を利用した通勤の推進などを行っていると考えられるため、公共交通の観点からもそのような意識を持っていただく取組があると環境面においてもより良いのではないか。

回答(事務局)

児童、生徒への啓発については、教育委員会と連携を取りながら進めてまいりたいと思います。また、企業への啓発についても、成田国際空港などと連携を取りながら進めてまいります。

意見(伊東委員)

以前の分科会でも、公共交通をもっと市民の方々に愛着を持ってもらう、もしくは家族が自家用車を前提とした生活をしていると、それが当たり前になり、次の世代にも受け継がれているというお話があった。小中学生や企業、一般市民に対して、公共交通の利用について、モビリティ・マネジメントの視点で健康にも環境にも良いということ伝える利用促進やイベントについても検討を進めたい。

意見(青木委員)

コミュニティバスは普段の外出にも利用できるが、意外と市民に知られていない。コミュニティバスの各バス停の周りにどんなものがあるのかを示し、バス全体の魅力として伝えていくと良いのではないか。

回 答（事務局）

公共交通マップ作成時に検討させていただきます。また、公共交通の利用を促進するための啓発活動の中で実施したいと思います。

意 見（小幡委員）

P91 の評価指標 1 「路線バス・コミュニティバス利用者数」について、年間利用者数を 600 万人から 650 万人に増加させるという目標値が大きな数字であるため、「市民一人あたり年間 4 回利用していただければ達成できる数値です」のような表記にすると、市民 1 人ひとりが自分事として受け止めて、行動してもらうことにつながるのではないか。

回 答（事務局）

検討させていただきます。

6 傍聴者

1 名

7 次回開催日時

8 月予定

令和 3 年 6 月 11 日

以上、協議の内容と相違ないことを認め署名する。

議事録署名人 山田 考一

議事録署名人 小泉 英夫